

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道115号 阿武隈東道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県相馬市山上 至：福島県相馬市東玉野			延長	10.7 km	
事業概要	<p>一般国道115号は、福島県東部の相馬市を起点とし、伊達市、福島市を經由して、猪苗代町に至る延長120kmの広域幹線道路である。</p> <p>阿武隈東道路は、急峻な阿武隈高地を横断する延長10.7kmの区間において、一般国道115号の改築事業として計画されたものであり、線形不良区間や通行規制区間を回避するルートを形成し、福島県内陸部と沿岸部のアクセス強化を目的とした事業である。</p> <p>当道路の整備により、高次医療施設への速達性が向上するとともに、患者への負担が少ない安定した救急搬送が可能となる他、重要港湾相馬港の利便性向上が図られる。</p>					
H16年度事業化	H一年度都市計画決定	H18年度用地着手	H19年度工事着手			
全体事業費	370億円	事業進捗率	51%	供用済延長	0.0km	
計画交通量	5,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.8	総費用 (残事業)/事業全体 177億円/369億円 事業費：152億円/344億円 維持管理費：25億円/25億円	総便益 (残事業)/事業全体 498億円/498億円 走行時間短縮便益：470億円/470億円 走行経費減少便益：16億円/16億円 交通事故減少便益：11億円/11億円	基準年 平成22年		
感度分析の結果	<p>残事業について感度分析を実施</p> <p>【残事業】 交通量変動：B/C=3.0(交通量 +10%) B/C=2.6(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=2.6(事業費 +10%) B/C=3.1(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=2.5(事業期間 +20%) B/C=3.1(事業期間 -20%)</p>					
事業の効果等	<p>①高次医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福島県相馬市及びその周辺地区は、高次医療サービスの空白地帯となっており、高度な医療サービスが必要な場合には、福島県立医科大学付属病院への転院搬送が行われている。</li> <li>阿武隈東道路の整備によって、対象地域における高次医療施設への時間短縮や、急カーブ・急勾配のない安定した搬送経路が確保されるなどのアクセス向上が期待される。</li> </ul> <p>②港湾利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重要港湾相馬港から陸揚げされた貨物の約3割が県北方面へ輸送されており、主に国道115号が利用されている。</li> <li>阿武隈東道路の整備によって、重要港湾相馬港と産業の集積する県北方面の所要時間を短縮し、港湾利便性向上が期待される。</li> </ul> <p>③広域観光交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相馬市・伊達市・福島市・二本松市の4市は広域観光圏を形成し、地域の魅力を活かした体験型観光を推進し、2泊3日以上滞る型周遊観光の促進に取り組んでいる。</li> <li>阿武隈東道路の整備により、線形の悪い区間や通行規制区間を回避するルートを形成し、都市間移動時間を短縮することで、周遊観光の促進に寄与することが期待される。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>阿武隈東道路は福島県相馬地域と福島県内陸部との地域間交流を促進する広域幹線道路ネットワークの一部を形成し、一般国道115号現道に存在する通行規制区間、交通隘路区間の回避による高次医療施設へのアクセス向上や港湾アクセス向上等が期待されており、相馬市長をはじめとする首長で構成される一般国道115号（福島・霊山・相馬間）整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成22年7月2日）を受けている他、多くの団体から同様の要望を受けている。</p> <p>県知事の意見：対応方針（原案）については、異議ありません。なお、更なるコスト縮減など、総事業費の抑制に努めてください。</p>					
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率51%、うち用地進捗率95%					

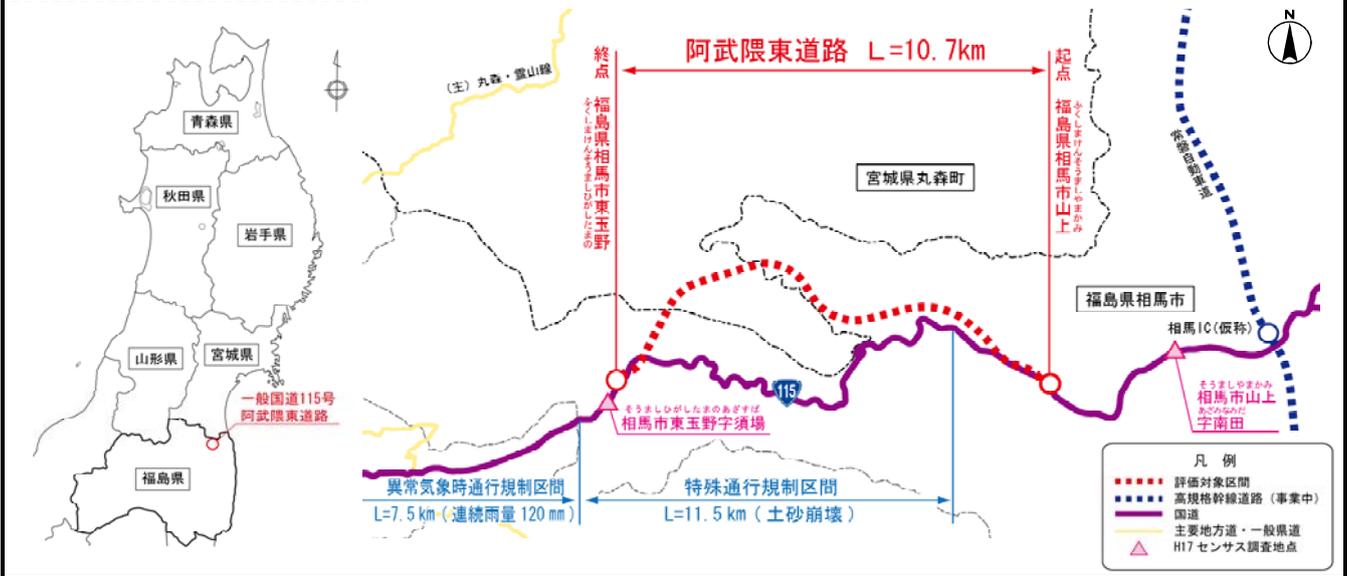
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等  
 事業進捗に係る問題はない。早期の供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等  
 ・橋脚に中空断面を採用することによるコスト縮減  
 ・トンネル内円形側溝の検討によるコスト縮減  
 ・トンネル照明器具の検討によるコスト縮減

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由  
 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。